

# 「平成 23 年度新入生の生活に関する調査」報告（1） -入学後の学生生活の予定や不安、期待する学生支援に着目して-

望月由起・桂瑠以

お茶の水女子大学 学生支援センター

## Report on “The research of the life of the new students of 2011”(1) - Focusing on the plans and concerns of the students after entering university, and the support that they expect from the university -

Yuki MOCHIZUKI and Rui KATSURA

Ochanomizu University Students Support Center

This paper reports the results of the research on the life of the new students of Ochanomizu University and their guardians, focusing on their plans and concerns about the students' campus life, and the support that they expect from the university.

The main findings are below: 1) Many students expect to commute from within Tokyo Prefecture and more than 80% of them plan to live in apartments whose monthly rent is between 50,000 and 90,000 yen; 2) The items on which the students intend to place emphasis in their first year at university are study, exchange with friends and activities in clubs and circles, and their concerns are classes and credits, their career paths and future, and human relationships, while their guardians are concerned about their career paths and future, health and human relationships; 3) Both students and their guardians expect support especially for career paths after graduation; 4) The increase in the need for financial and life support is correlated with the economic capability of each family.

**keywords** : life after entering university, career support, scholarship, dormitory

### はじめに

お茶の水女子大学学生支援センターでは、平成 23 年度の学部新入生とその保護者を対象に、文部科学省特別経費プロジェクト「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」の一環として、「新入生の生活に関する調査」を実施した。本調査は、大学生生活の基盤や大学へのニーズを明らかにすることによって、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に実行するための基礎資料として活用することを目的としたものである。

本稿では、本調査の結果について、入学後の学生生活の予定や不安、期待する学生支援に着目して報告する。本学が目指す統合型学生支援のあり方や方向性を検討する上での示唆を得るために、経済的・生活支援に対する希望については、家庭の経済状況とからめての分析も加えることとする。

### 調査の概要

#### 調査目的

平成 23 年度の本学（学部）入学予定者の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的とする。

具体的には、下記 4 点を中心とする。

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。

2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。

3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。

4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

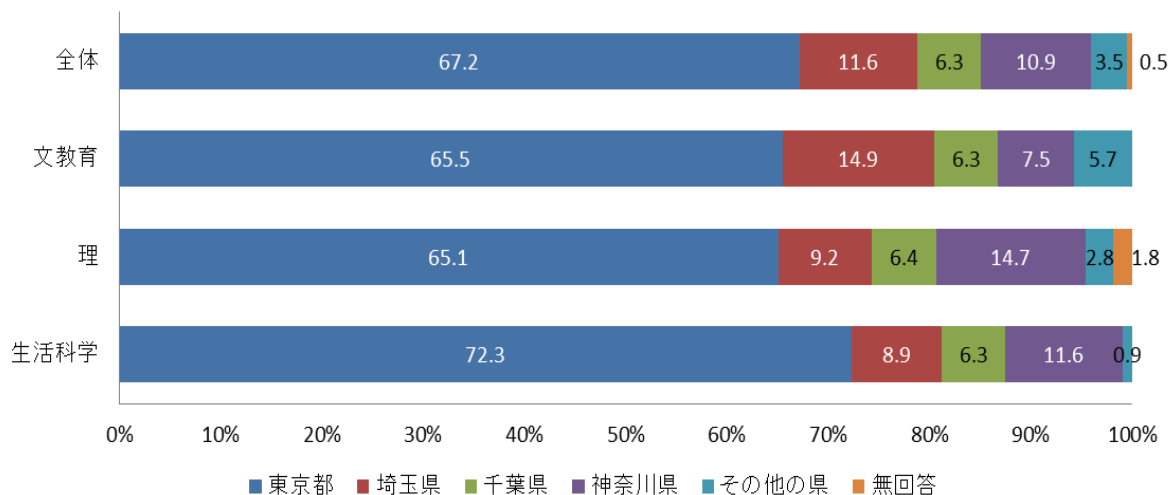


Figure1 大学入学後に居住予定の都道府県

#### 調査時期

2011年3月。東日本大震災等の影響により、一部の学生(および保護者)は、提出締切を4月中旬とした。

#### 調査方法

原則として、郵送による送付・返送。一般入試合格者(および保護者)、私費外国人留学生に対しては、他の入学手続関係書類に調査票および調査返送用封筒を同封し、他の書類とともに回答の返送を依頼した。その他の方法での合格者(および保護者)に対しては、別途、調査時期に、調査票および調査返送用封筒を送付し、返送を求めた。

なお、東日本大震災等の影響により提出締切を延長した一部の学生(および保護者)に対しては、直接、学生・キャリア支援チームへの提出を求めた。

#### 調査分析対象

「新入生を対象とした調査(以降、新入生調査とする)」

平成23年度学部入学者484名。有効回答数396名(入学者のうち81.8%)。文教育学部174名(同80.6%)、理学部109名(同82.0%)、生活科学部112名(同83.0%)。

「新入生の保護者を対象とした調査(以降、新入生保護者調査とする)」

平成23年度学部入学者のうち私費留学生を除いた480名。有効回答数382名(入学者のうち79.6%)。文教育学部165名(同76.4%)、理学部105名(同79.0%)、生活科学部107名(同64.9%)。いずれの調査も、返送者のうち分析許可を得ることができなかった者は分析対象から除いている。

#### 調査内容

出身高校、家族、志望動機、進路選択、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待(以上、新入生調査)、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待(以上、新入生保護者調査)など多岐にわたっている。

#### 入学後の学生生活の予定

まず本学新入生の大学入学後の学生生活の予定について、「大学入学後の居住予定の都道府県」「大学入学後の住居の予定」「1か月の家賃の予算」「1か月の仕送り予定額」「大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動」「授業料の負担予定」の側面から、新入生調査に基づいて示していく。

#### 大学入学後に居住予定の都道府県

Figure1は、大学入学後に居住予定の都道府県を尋ね、本学の所在地である「東京都」、隣接している「埼玉県」「千葉県」「神奈川県」、「その他の県」別に示した結果である。

全体で見ると、「東京都」が67.4%と目立ち、「埼玉県(11.6%)」「神奈川県(10.9%)」「千葉県(6.3%)」と続いている。学部により大きな差異傾向はみられないが、理学部では、「東京都」について「神奈川県」が多い結果となった。

本調査に回答した本学新入生のうち、「東京都」の高校出身者は25.8%であることから(お茶の水女子大学2011b,P6)、本学新入生は、親元を離れ、本学の所在地である「東京都」に居住する予定の者が多い

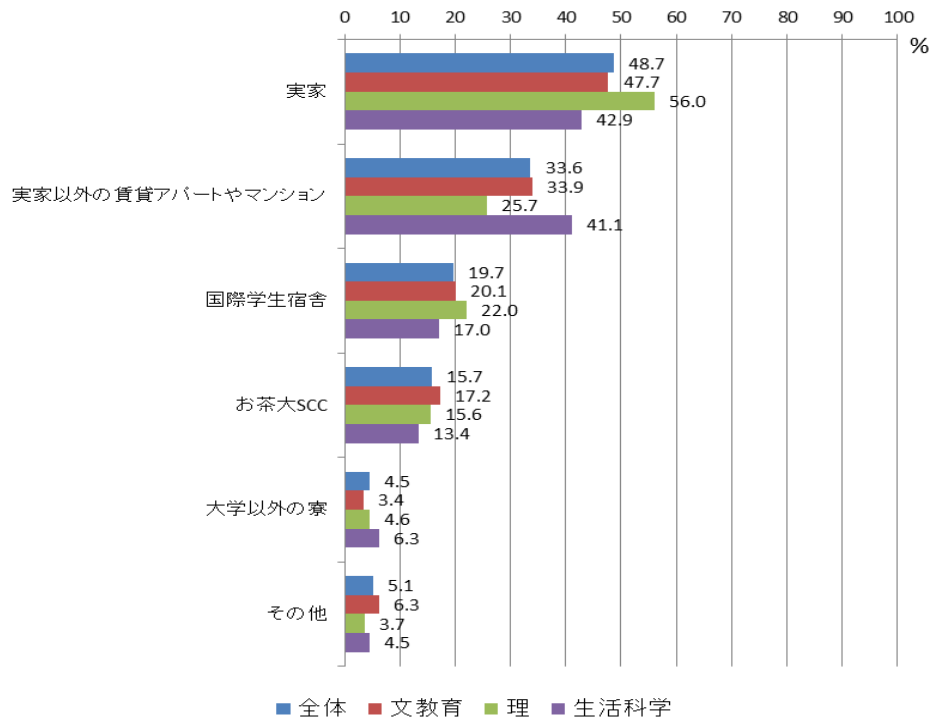


Figure2 大学入学後に予定している住居

ものと思われる。こうした点をふまえ、本学では、学内での支援のみならず、学外での生活等も視野に入れた支援が必要であるといえよう。

#### 大学入学後の住居の予定

Figure2は、大学入学後に予定している住居について、「実家」「実家以外の賃貸アパートやマンション」に加え、本学の学生寮である「国際学生宿舎」「お茶大SCC」、「大学以外の寮」「その他」の中から、複数回答可として尋ねた結果である。

全体で見ると、「実家(48.7%)」がおおよそ半数を占めており、次いで、「実家以外の賃貸アパートやマンション(33.6%)」、「国際学生宿舎(19.7%)」や「お茶大SCC(15.7%)」といった学生寮が続いている。

ただし、「実家(56.0%)」は理学部が他の学部比べて高く、「実家以外の賃貸アパートやマンション(41.1%)」は生活科学部が他の学部比べて高い傾向が示されている。

#### 1か月の家賃(管理費込み)の予算

Figure3は、1か月の家賃(管理費込み)の予算(千円未満は四捨五入)について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である。

全体で見ると、「5～7万円(53.4%)」がもっとも多く、次いで、「8～9万円(29.3%)」が続いており、

8割以上の新入生は5～9万円を1か月の家賃として予定していることがわかる。

ただし、「5万円未満」との回答も全体の4.5%で見られ、中でも文教育学部では8.5%に及んでいる。

なお、全国大学生生活協同組合連合会が実施した「学生の消費生活に関する実態調査」によれば(全国大学生生活協同組合連合会2011,P13)、下宿生のうち、1都3県(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)の1か月の住居費平均は62,500円であり、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の本学新入生の家賃の予算と大きな隔たりはない。

#### 1か月の仕送り予定額

Figure4は、1か月あたりの仕送り予定額(万円未満は四捨五入)について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である。

全体で見ると、「5～7万円(27.4%)」がもっとも多く、次いで、「10～12万円(19.4%)」「15万円以上(11.4%)」が続いている。その一方で「仕送りはない(9.5%)」「5万円未満(9.5%)」といった回答も少なからずみられた。

「学生の消費生活に関する実態調査」によれば(全国大学生生活協同組合連合会2011,P8)、下宿生のうち、仕送り「10万円以上」は31.7%と、この10年ではほぼ半減している一方で、仕送り「0」の割合は10.5%

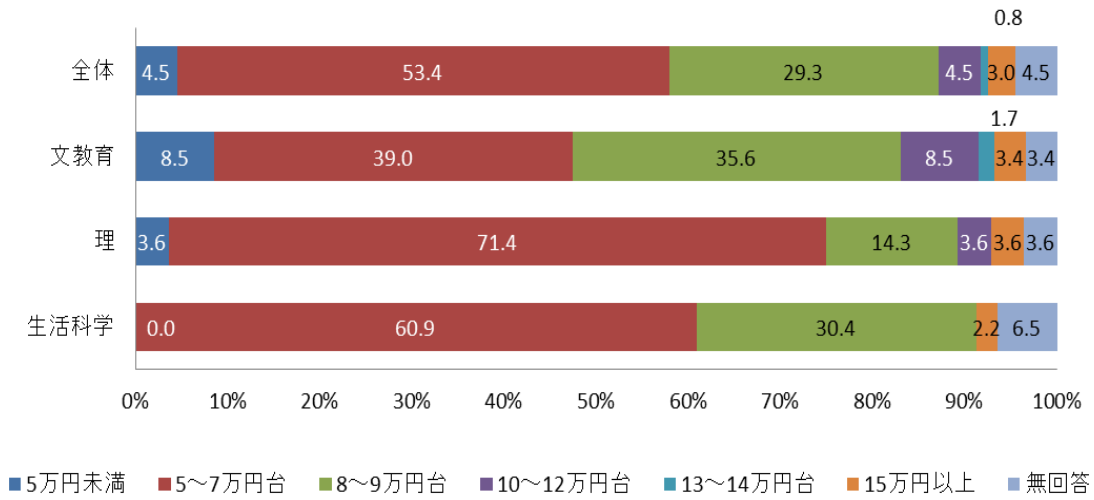


Figure3 1か月の家賃（管理費込み）の予算

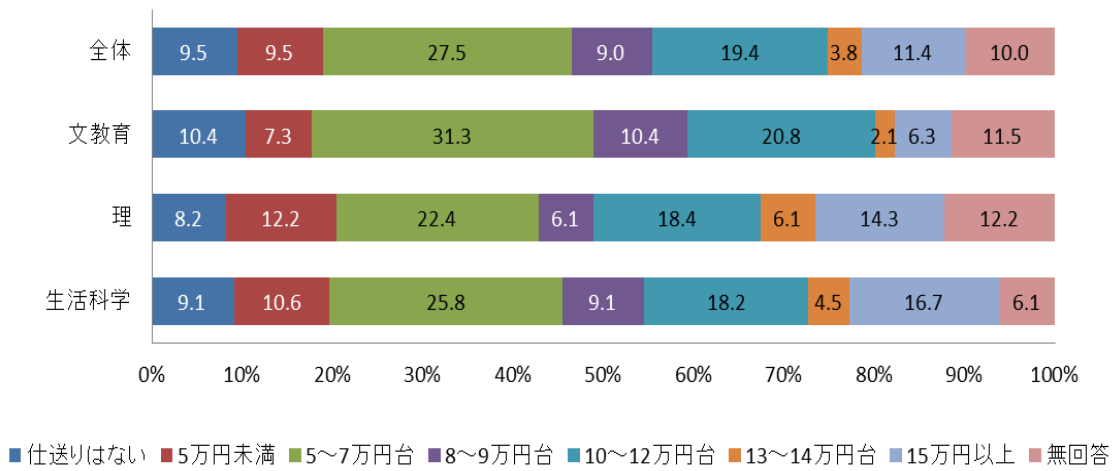


Figure4 1か月あたりの仕送り予定額

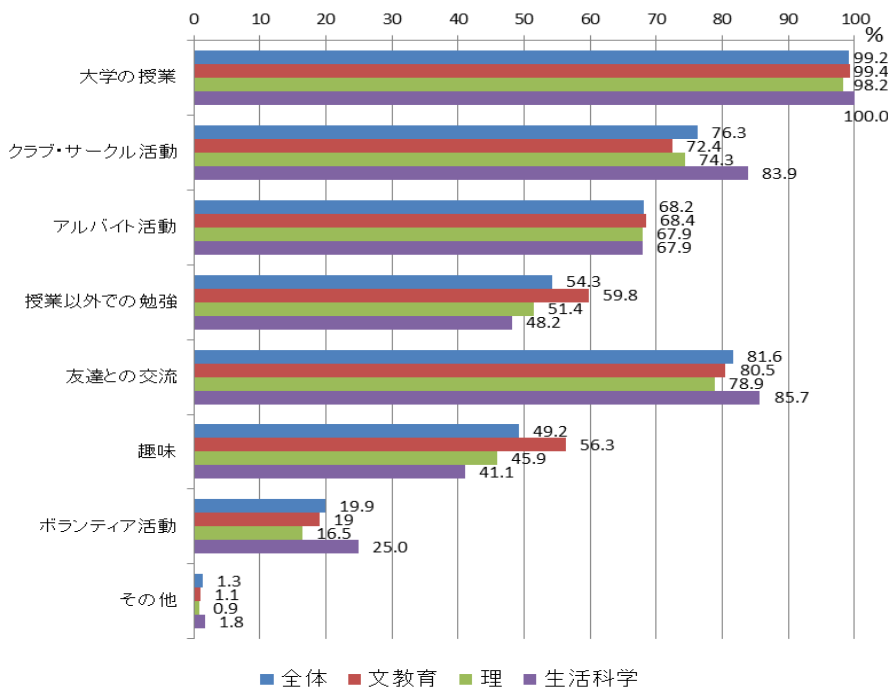


Figure5 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

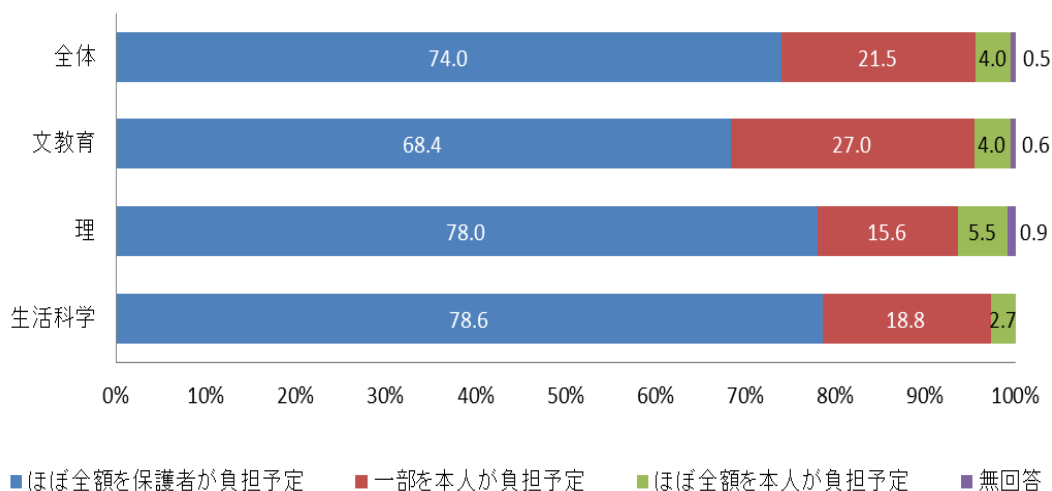


Figure6 授業料の負担予定

と引き続き1割を超えており、5万円未満層も25.4%と初めて25%を超えている。本学の新入生の状況も、ほぼ同様の状況であることがFigure4からはわかる。こうした点をふまえると、本学でも、奨学金制度などの生活・経済的支援の充実は、従来にもまして、今後ますます必要であるといえよう。

大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

Figure5は、大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果である。

「大学の授業」は全体の99.2%の学生が回答しており、いずれの学部でも、大多数の新入生が「大学の授業」を頑張ろうと思っていることが示されている。

他にも、「友達との交流(81.6%)」や「クラブ・サークル活動(76.3%)」の回答率が高いが、これらの活動においては、特に生活科学部での回答率の高さが目立っている。その一方で、生活科学部では、「授業以外での勉強」や「趣味」についての回答率は他の学部比べて低いことが示されている。

授業料の負担予定

Figure6は、授業料の負担予定について、「ほぼ全額を保護者が負担予定」「一部を本人が負担予定(奨学金等による負担含む)」「ほぼ全額を本人が負担予定(奨学金等による負担含む)」の中から尋ねた結果である。

全体でみると、「ほぼ全額を保護者が負担予定(74.0%)」が全体のおよそ3/4を占め、「ほぼ全額を本人が負担予定(奨学金等による負担含む)」は4.0%に過ぎない結果となった。

ただし文教育学部では、「ほぼ全額を保護者が負担予定(68.4%)」が他学部比べて低く、「一部を本人が負担予定(奨学金等による負担含む)(27.0%)」が高い傾向もみられた。

入学後の学生生活への不安

では、本学の新入生やその保護者は、大学入学後の学生生活に対してどのような不安を抱えているのだろうか。

Figure7およびFigure8は、全国大学生生活協同組合連合会が2010年に実施した「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学での学生生活が始まって心配なことについて、新入生調査および新入生保護者調査において、複数回答可として尋ねたものである。

まずは、新入生調査に基づき、新入生自身の結果をみていく。

「特にない」は全体の5.1%に過ぎないことから、本学の新入生の多くは、大学生活に関して何らかの不安を抱えていることがうかがえる。

不安の中身に目を向けると、「授業や単位」「就職や将来」「人間関係」の順に多くみられ、いずれの学部でも半数を超えている。また、これらいずれの項目でも、理学部が他学部比べて高い傾向もみられた。

同様に、新入生保護者調査に基づき、保護者の結果をみていく。

全体でみると、「就職や将来」「健康面」「人間関係」の順に多い。「健康面」に関しては、学部による大きな差異はみられないが、「就職や将来」に関しては、生活科学部が他学部比べて低く、「人間関係」に関

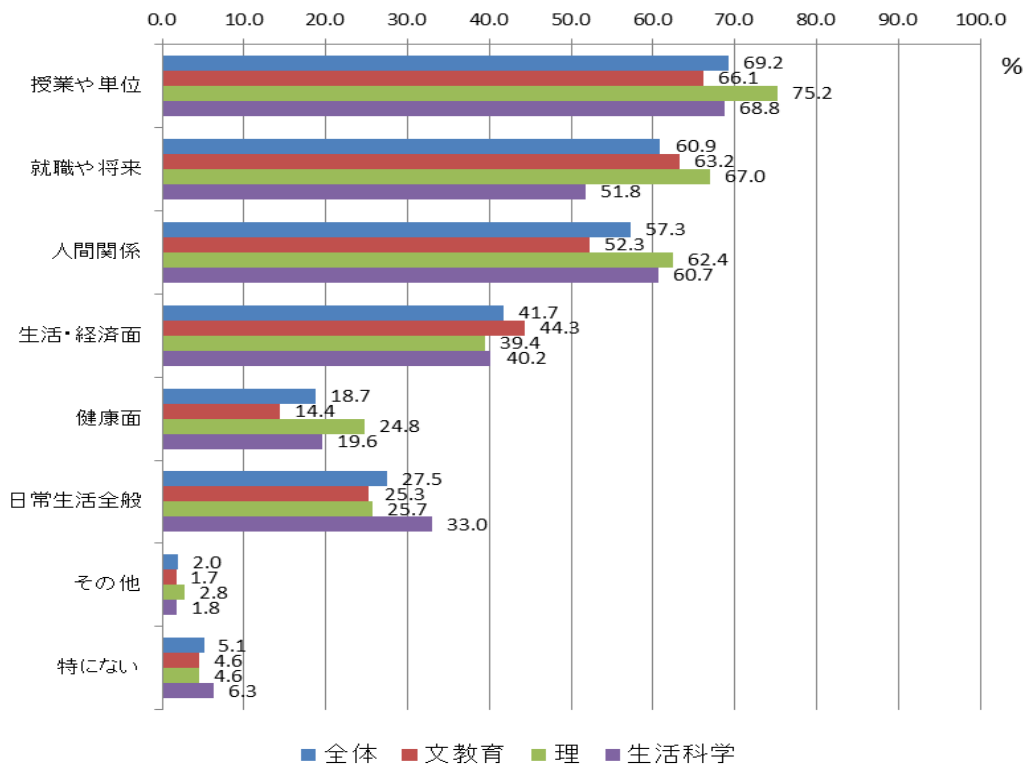


Figure7 新入生：大学生生活が始まって心配なこと（複数回答可）

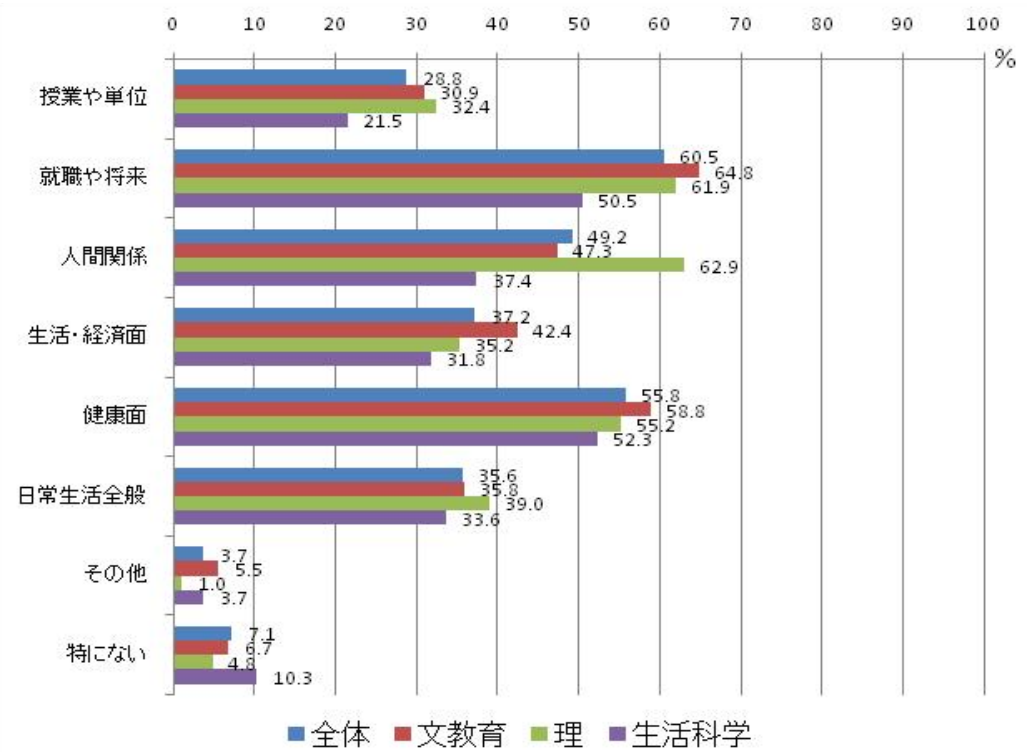


Figure8 保護者：大学生生活が始まって心配なこと（複数回答可）

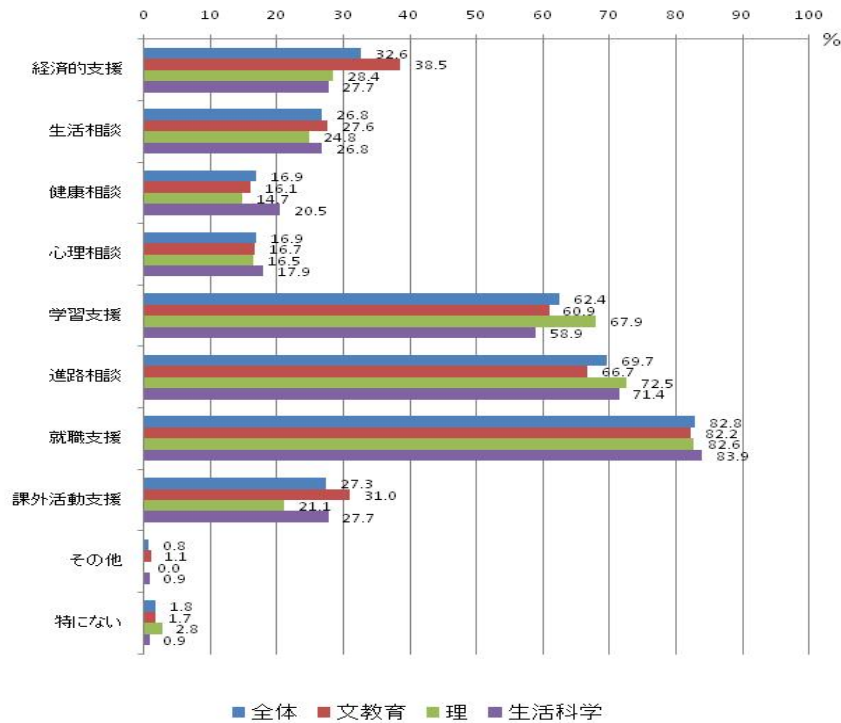


Figure9 新入生：本学の学生支援活動で期待するもの（複数回答可）

しては理学部が他学部比べて高い傾向もみられた。  
 全国大学生協同組合連合会が実施した「保護者に聞く新入生調査」によれば、「就職や将来」や「生活・経済面」は年々比率が高まっており、「就職や将来」44.5%（2年間で11.3ポイント増）、「生活・経済面」26.4%（同2.3ポイント増）となっている（全国大学生協同組合連合会2010,P10）。Figure8からは、本学新入生の保護者にも、「生活・経済面」もさることながら、「就職や将来」に不安を抱える保護者が多いことがうかがえる。

期待する学生支援活動

上記のような学生生活の予定や不安をもつ本学の新生や保護者は、大学に入学後、いかなる学生支援活動を大学に期待しているのだろうか。

Figure9 および Figure10 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、新入生調査および新入生保護者調査において、複数回答可として尋ねたものである。

まずは、新入生調査に基づき、新入生自身の結果をみていく。

全体で見ると、「就職支援」がもっとも多く、いずれの学部でも8割以上に達している。それに次ぐ「進

路相談」もおおよそ7割におよんでいることから、本学の新生は、卒業後の進路に関する支援活動を特に期待する者が多いことがわかる。

同様に、新入生保護者調査に基づき、保護者の結果をみていく。

新入生自身の回答結果と同様、全体で見ると、「就職支援」がもっとも多く、いずれの学部でもおおよそ9割に達し、次いで「進路相談」が多くみられた。

本学の在学学生を対象とした「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」では、本学の学生支援活動で足りないところとして、「就職支援」や「進路相談」の高さが示されている（お茶の水女子大学2011a,P36-37）。新入生やその保護者からの期待からみても、在学学生の不満からみても、卒業後の進路に関する支援には特に力を入れていくことが求められているといえよう。

経済的・生活支援の希望

最後に、新入生保護者調査に基づき、経済的・生活支援の希望に焦点をあて、家庭の経済力とからめながら示していく。本学が目指す統合型学生支援のあり方や方向性を検討する上での示唆を得るために、また Figure9 および Figure10 から、これらの支援への期待が少なからずみられることから、その背景に目を

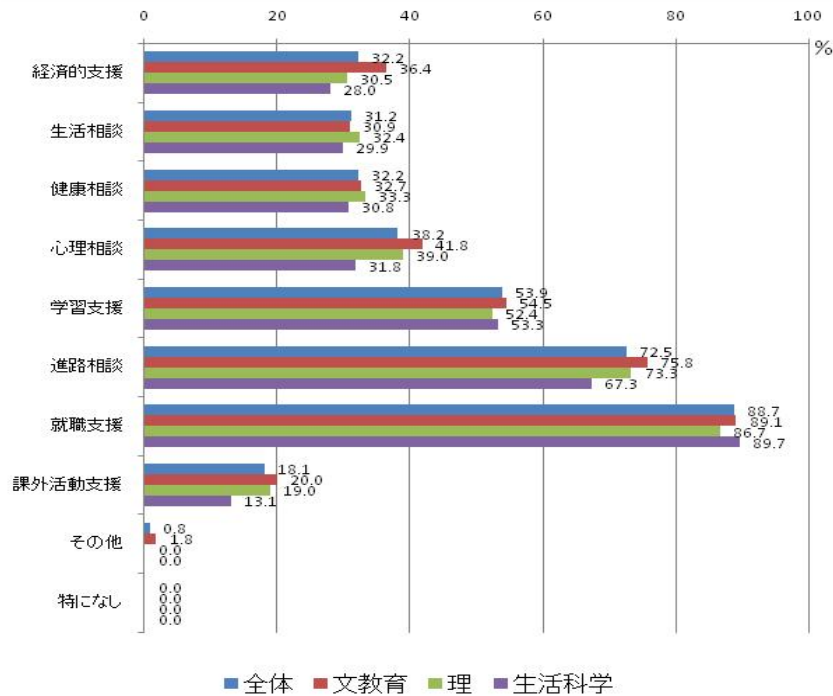


Figure10 保護者：本学の学生支援活動で期待するもの（複数回答可）

向けることは重要な視点であろう。

#### 奨学金の希望

まずは、経済的支援として「奨学金」に焦点をあて、その希望状況について、「受給経験」「制度の認知」「世帯年収」との関連からみていく。

奨学金の希望の有無、過去に奨学金を受給した経験がある者となない者として希望の有無に違いがあるかを調べた結果が Figure11 である。

その結果、全体では、約 6 割の保護者が大学奨学金を希望していることがわかった。また、これまでに奨学金を受給した経験がある場合は、奨学金を希望する割合が高く、これまでに奨学金を受給した経験がない場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかった。このことから、高校までの奨学金受給経験が、大学入学後の奨学金の希望の有無に関係しているものと考えられる。

続いて、奨学金の認知と希望の有無に関連があるかを調べた結果が Figure12 である。

その結果、奨学金について認知している場合は、奨学金を希望する割合が高く、奨学金について認知していない場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかった。このことから、奨学金をはじめとした支援の情報を周知させることにより、支援のニーズが高まるものと考えられる。

続いて、世帯年収と奨学金の希望の有無に関連があるかを調べた結果が Figure13 である。

その結果、世帯年収が低い場合は、奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が高い場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかった。

#### 学生寮への入寮希望

さらに、生活支援として「学生寮」に焦点をあて、入寮希望状況について、「学生寮の認知」「世帯年収」との関連からみていく。

学生寮への入寮希望の有無、学生寮についての認知と入寮希望との関連を調べた結果が Figure14 である。

その結果、全体では、65%の保護者が学生寮への入寮を希望していることがわかった。これは、奨学金の希望と同程度の結果である。また、学生寮について認知している場合は、学生寮への入寮を希望する割合が高く、認知していない場合は、入寮を希望する割合が低いことがわかった。このことから、学生寮をはじめとした支援の情報を周知させることにより、支援のニーズが高まるものと考えられる。

続いて、世帯年収と学生寮への入寮の希望の関連を調べた結果が Figure15 である。

その結果、世帯年収が低い場合は、学生寮への入寮を希望する割合が高く、世帯年収が高い場合は、入寮を希望する割合が低いことがわかった。



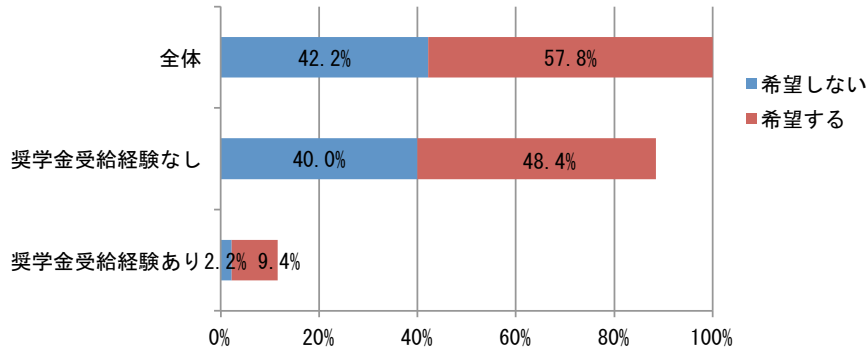


Figure11 奨学金受給経験と奨学金の希望

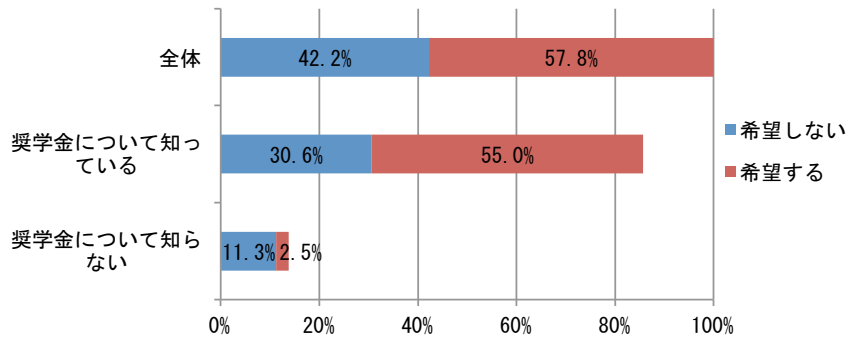


Figure12 奨学金の認知と奨学金の希望

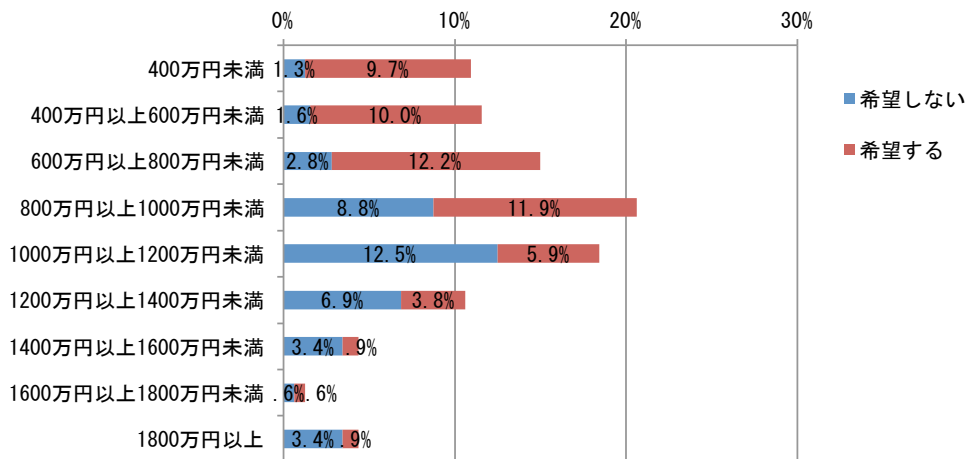


Figure13 世帯年収と奨学金の希望

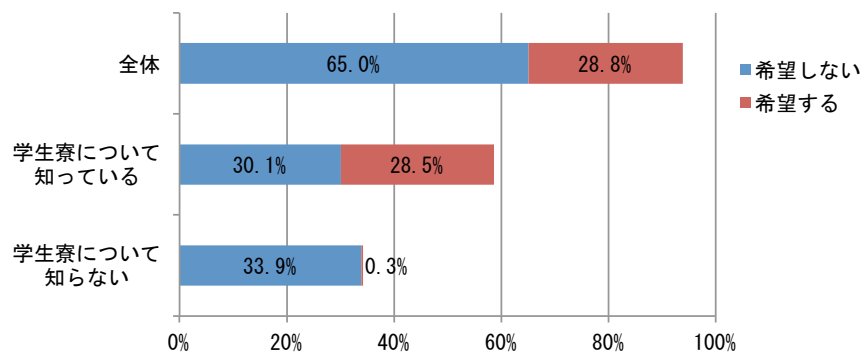


Figure14 学生寮の認知と希望

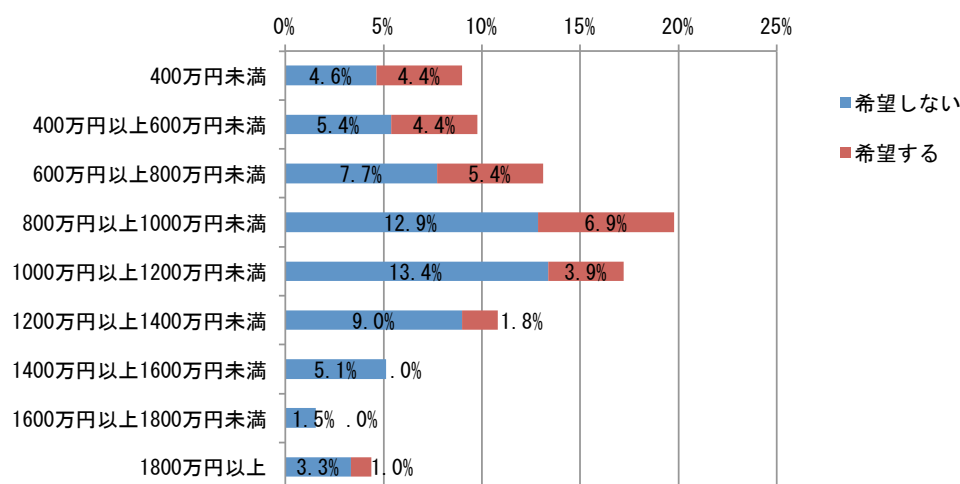


Figure15 世帯年収と学生寮の希望

おわりに

本稿からは、本学の新生は、都内を中心に、「実家」「アパート・マンション」「学生寮」から通学を予定する者が多く、アパートやマンションの家賃は「毎月5～9万円台」が一般的であることがわかった。また、入学後の1年で頑張りたいのは、「大学の授業」「友達との交流」「クラブ・サークル活動」であり、新生は「授業や単位」「就職や将来」「人間関係」に、保護者は「就職や将来」「健康面」「人間関係」に不安を抱えていることもわかった。

こうした不安を反映し、新生、保護者ともに、大学には卒業後の進路に関する支援活動を特に期待していることも明らかになった。それは、本学に在学する学部生が「足りない」と感じている支援活動でもあることから、より一層の充実が急務であるといえよう。

経済的・生活支援に関して言えば、家庭の経済力と支援ニーズの高さが関連していることは明らかであり、支援の充実を図るとともに、支援に関する情報が、支援を必要とする学生や家庭に十分かつ適切に行き渡るようにすることも重要である。

参考文献

お茶の水女子大学 (2011a) 「平成 22 年度 お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」  
 お茶の水女子大学 (2011b) 「平成 23 年度 新生の生活に関する調査」  
 全国大学生生活協同組合連合会 (2010) 「2010 年度 保護者に聞く新生調査報告書」  
 全国大学生生活協同組合連合会 (2011) 「CAMPUS LIFE DATA2010 第 46 回 学生の消費生活に関する実態調査」

※ 本調査の報告書は学生・キャリア支援チームで冊子を手に入れるほか、TeaPot から PDF 形式でダウンロードいただけます  
<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10083/50935>

※ 報告書の一部は、学生支援センターホームページ内「調査結果のご報告」にて、「Research Report」として紹介しております。  
[http://www.ocha.ac.jp/gss/support\\_center/research/index.html](http://www.ocha.ac.jp/gss/support_center/research/index.html)

2012 年 2 月 27 日 受稿  
 教育機構実施調査により受理